

令和6年度 愛媛伊予モラロジー事務所 社会貢献事業

第11回 「家族のきずなエッセイ」 入賞作品集



授賞式：令和6年11月30日（土）14：00～15：15

IYO夢みらい館会議室201（伊予市米湊768-2）

主催：愛媛伊予モラロジー事務所

後援：伊予市・松前町・伊予市教育委員会・松前町教育委員会

協力校：伊予市立郡中小学校・伊予小学校・中山小学校・

北山崎小学校・佐礼谷小学校・翠小学校・由並小学校

伊予中学校・港南中学校・双海中学校

松前町立北伊予小学校・松前小学校・岡田小学校

松前中学校・岡田中学校・北伊予中学校

目 次

* 挨拶	愛媛伊予モラロジー 事務所 代表世話人	國西 俊孝 . . .	1
* 講評	選考委員長 元郡中小学校長	紺田 順一 . . .	2
* エッセイ入賞者		3
* 入賞作品		4~31

【選考委員】

選考委員長	紺田 順一	元郡中小学校長
選考委員	松浦 博文	前港南中学校長

ご 挨拶

この度、愛媛伊予モラロジー事務所では、社会の道徳化に貢献するため、昨年が続いて第 11 回「家族のきずなエッセイ」の募集をいたしましたところ、伊予市、松前町の小学校（3 年生以上）、中学校の児童生徒の皆様から 756 編のご応募をいただきました。誠にありがとうございました。本冊子「家族のきずなエッセイ作品集」には、その中から選ばれた入賞作品（特別賞 6 編、優秀賞 22 編）あわせて 28 編の作品を掲載しています。

今回のエッセイ募集には、伊予市、松前町の行政、教育委員会をはじめ、小学校、中学校の校長先生や諸先生方、並びに保護者の皆様方のご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。また、選考委員長としてご尽力を賜りました前郡中学校長 紺田順一先生、ならびに選考委員の前港南中学校長 松浦博文先生に厚く御礼申し上げます。

私たちは、家族・親・祖先とのきずなを感じるとき、生きる力と喜びを得ることができます。本冊子に掲載された心温まる作品を一人でも多くの方にお読みいただくことで、心と心がしっかりと結ばれた家庭・地域社会づくりに多少なりとも貢献できますならば、誠に幸いに存じます。今回、私たちに深い感動を与えて下さった入賞者の皆様にご心から感謝を申し上げます。ご挨拶といたします。

令和 6 年 11 月 吉日
愛媛伊予モラロジー事務所
代表世話人 國西 俊孝

講 評

愛媛伊予モラロジー事務所主催の第11回「家族のきずなエッセイ」の募集に、伊予市・松前町の小学校から10校347編、中学校から7校409編、計756編の応募がありました。昨年度の580編を大きく上回る応募に、関係者一同感謝の気持ちで一杯です。ご協力いただいた各学校の校長先生をはじめとする先生方、児童生徒の皆さん、保護者の皆さんに改めてお礼申し上げます。

さて、今回も応募された作品には、子どもたちの家族に対する思いが素直な言葉で表現されており、どの作品も素晴らしい内容でした。全ての作品を入選にしたいところですが、賞の数に限りがありますので、次の四つの視点で選考させていただきました。

- (1) 家庭生活の中で、家族の大切さやありがたさを確認する作品
- (2) 内容が実体験を基にしている作品
- (3) 内容が具体的で、実践への意欲が表れている作品
- (4) 今後の生活に、生きる力と喜びが感じられる作品

以上の視点で選考した結果、この作品集に掲載する特別賞6編、優秀賞22編を決定いたしました。ご一読いただいたら分かるように、どの作品も家族の大切さや家族に対する感謝の気持ちが実体験に基づいて具体的に書かれており、今後の自分の生き方がしっかりと示されています。また、子どもたちの家族という概念が、祖父母や両親、兄弟姉妹に限らずペットなどにも広がっていることを感じ取ることができました。

普段の生活では、子どもたちは恥ずかしさから家族に対して感謝の気持ちを言葉や態度で伝えられていないかもしれません。しかし、心の中ではしっかりと家族に対する感謝の気持ちをもっています。また、大人が想像している以上に、子どもたちは家族のきずなを感じていると思います。この作品集が、今後の家族のきずなをより一層深めるための一助になれば幸いです。

最後になりますが、作品を応募していただいた児童生徒の皆さんやご協力いただいた学校の先生方、保護者の皆さん、そして、本エッセイ募集の企画・運営にご尽力いただいた関係者の方々に心から感謝申し上げます。

選考委員長
元郡中小学校長 紺田 順一

令和6年度 第11回「家族のきずなエッセイ」入賞作品

特別賞	* 伊予市長賞	南條 耀	伊予小学校	6年	「ライバル」 4
	* 松前町長賞	鵜籠 将大	松前中学校	1年	「家族みんなで一人」 5
	* 伊予市教育長賞	定井 蒼波	港南中学校	3年	「私の大好きなお母さん」 6
	* 松前町教育長賞	森下 煌矢	北伊予小学校	6年	「一本の木」 7
	* モラロジー道徳教育財団賞	武田 美姫	双海中学校	3年	「あたりまえの日常」 8
	* 愛媛県モラロジー協議会賞	西下 清太	北山崎小学校	4年	「残ったぼくの宝物」 9

優秀賞 (小学校)	永木 架帆	伊予小学校	3年	「大切な人」 10
	山田 栞蓮	松前小学校	3年	「家ぞくの大切さを実感した時」 . . 11
	松田 彩	北伊予小学校	3年	「私の大好きな家ぞく」 12
	重松 那々子	北伊予小学校	4年	「支えてくれる家族」 13
	武智 咲希	伊予小学校	5年	「ミーちゃんとのきずな」 14
	後藤 菜乃	翠小学校	5年	「わたしのすてきな家族」 15
	船津 りりあ	北伊予小学校	5年	「お空にいるお父さんへ」 16
	助川 凜亜	伊予小学校	6年	「私の心の支え」 17
	西岡 空美	伊予小学校	6年	「私にとって大切な家族」 18
	沖野 陽菜香	中山小学校	6年	「家族に支えられて」 19
	福岡 紬	佐礼谷小学校	6年	「二匹の命を繋いでいく」 20
	稲垣 渚	北伊予小学校	6年	「世界に一つだけの宝物」 21
伊藤 月祈	岡田小学校	6年	「あいさつは相手をもとめる行為」 . 22	

優秀賞 (中学校)	古川 みらん	港南中学校	1年	「大切な私とお義母さんの『合言葉』」 23
	仲神 凜	伊予中学校	1年	「世界で一人の大切なお母さん」 . . 24
	友澤 眞生	伊予中学校	1年	「曾祖母の姿」 25
	萩岡 春斗	松前中学校	2年	「骨折りを「損」から「得」へ」 . . 26
	松友 日和	岡田中学校	2年	「ひいおばあちゃんからの恩」 . . 27
	堀上 初音	岡田中学校	2年	「家族の愛」 28
	山本 遥海	北伊予中学校	2年	「ここにいてくれるだけで」 29
	逢沢 紀乃	中山中学校	3年	「祖母の言葉」 30
	眞鍋 里寛	北伊予中学校	3年	「自分が放った言霊が」 31

伊予市長賞

ライバル

伊予小学校 6年 なんじょう 南 あき 條 耀 さん

ぼくには双子の兄がいます。「双子だから」といってとても比べられます。勉強のことや運動のこと、性格のことで兄と比べられるのがぼくはいやでした。「双子だから」といってなんで比べられないといけないのと、ずっと思っていました。顔がにているからで、名前をまちがえられるのもとてもいやでした。

ある時、兄がぼくより泳ぐのが速くなっていることに気がつきました。ぼくは、その時とても悔しかったです。だからぼくは兄をぬかそうと本気で練習をがんばりました。一か月ぐらいしたら、ぼくは兄に追いついたのです。

その日の夜、ぼくはあることに気付きました。ぼくが上手になったのは、兄ができるようになり、がんばろうと思ったからだ。双子という立場だからこそきそい合い、がんばれるのだ。そしてくやしいと思えるのだと気付きました。

今では世界に一人の兄で、なくてはならない大切なライバルです。

そして、兄と双子で本当によかったと思います。

松前町長賞

家族みんなで一人

松前中学校 1年 うごもり 鵜籠 しょうだい 将大 さん

僕は家族みんなが大好きです。いつでもそばにいてくれて支えてくれる。あたり前かもしれないけど、僕はそう思いません。

僕は野球をしています。一人でなやむこともあるけど、そんなときいつも家族が助けてくれます。打てなかったとき、ミスをしたとき、そんなときに助言してくれます。助言してくれるだけでなく解決しようと練習につきあってくれます。だから僕は家族みんなで一人だと思っています。家族に恩返しをしたいと思い活躍して全国大会に連れて行くことができました。野球のチームでつかみとったものだけ家族みんなでつかみとったものでもあるなと思いました。でも残念ながら全国大会では負けてしまい、暗い表情で家族のもとに行くと、みんなほめてはげましてくれました。みんなで悔しんだりして、やっぱり家族みんなで一人なんだと思いました。この家族がずっと続いてほしい。そんな気持ちもあるけど、この家族が一生続くわけではないから、今を大切に後悔のないよう過ごしていきたいです。そして思い出ができるようにもっと恩返しもしていきたいです。

僕は家族と野球は似ていると思います。二つ共一人ではなく絆で結ばれているからです。

伊予市教育長賞

私の大好きなお母さん

港南中学校 3年 さだい あおな
定井 蒼波 さん

私のお母さんは朝七時半に仕事に行くために家を出て、夕方ごろに帰ってきます。そのため、いつも疲れています。それでも、家のことを完璧にこなしています。私はそんなお母さんを尊敬しています。私は自分が疲れていたら、やらなければいけないことを後回しにしてしまうのに、お母さんは何でも完璧にしています。そんなお母さんが私は大好きです。

ある日、塾で高校についての話をしました。私は看護師になりたいので、私立の看護科はどうかと塾の先生に言われました。そこに行きたいと思うと同時に私立はお金がかかるからお母さんに迷惑をかけてしまうと思いました。その思いをお母さんに伝えたら、「お金のことは気にせず、自分の行きたいところに行きな」と言ってくれました。そのとき、私は申し訳なさと同時に将来お母さんに楽をさせようと誓いました。

今、私は中学三年生であと数ヵ月後には私立の受験があります。将来立派な看護師になれるように、今必死で勉強しています。お母さんに恩返しができるようにこれからも頑張ります。いつも本当にありがとう。

松前町教育長賞

一本の木

北伊予小学校 6年 もりした 森下 こうや 煌矢 さん

ぼくは、あまりお母さんたちと会話をしなかった。一人で部屋にいき、そして一人でゲームをする。そんな毎日だった。ときどきいっしょにご飯を食べる時も会話をせずに食べおわるとすぐ自分の部屋に行く。その生活が続いていたある時に、お母さんが一本のライムの木を買ってきた。それはお母さんが一人で水やりなどもしていた。そして数ヵ月たったころお母さんがかぜをひいた。それが数日続き、しだいにライムの木は弱っていくように見えた。それをみてぼくは、しかたないから水やりをした。それが終わって部屋にもどろうとしたときお母さんが「ありがとう」と言った。ぼくは「うん」と言った。お母さんと会話をしたのは久しぶりだったなど心で思っていた。それからちょっとずつ会話をするようになった。楽しい時も、悲しい時も、つらい時もよりそってくれる家族がいると実感できた。ぼくは、一人じゃない、家族という存在がいるから生きているんだと思うと目からなみだがこぼれた。それからは、いっしょにご飯を食べ、その時に学校であったできごとを話したりする。あたり前のこともそれが家族とのきずなを深めあっているとぼくは思いながら生きている。家族といっしょに。

モラロジー道徳教育財団賞

あたりまえの日常

双海中学校 3年 たけだ みき
武田 美姫 さん

「おばあちゃんが倒れたって。」

中学一年生の冬、私は命の重みを初めて知った。終業式が終わり、昼には家に帰っていた私は、いつものようにスマホを触っていた。すると仕事に行っているはずの母が家に帰ってきて、その言葉を聞かされた。

祖母は私の家から少し離れたところに住んでいて、年に何度か会う程度だったけれど、優しくて大好きだった。お正月には会えるかな、なんて考えていたところだったから何かの間違いだろうと耳を疑った。

私はこれまで身近な人の死に出会ったことがなかった。これからもないだろう、どこか遠くの話だろうと思っていた。ただこんなにも身近で起こってしまった。

今ある何げない日常もいつか少しのことで崩れてしまうかもしれないのかな。私はこのときからいろんなことを考えるようになった。「ありがとう」「ごめんなさい」は絶対に言おう。楽しむときはいっぱい楽しもう。普段から感謝を伝えよう。友達にも家族にも先生にも。当たり前で日常で過ごせるうちに。

愛媛県モロロジー協議会賞

残ったぼくの宝物

北山崎小学校 4年 ^{にしした}西下 ^{せいた}清太 さん

ぼくには、ひいじいちゃんがありました。でも、年長の時にがんでなくなってしまいました。ひいじいちゃんは、なくなるその時までやさしく、いっしょうけんめい仕事をがんばる人でした。

ようち園でいやなことがあったこともありますが、いつもぼくの味方になってはげまし、おうえんしてくれました。励ましてもらったたびにいやな事を忘れて、前向きになれました。そんなひいじいちゃんは、もういません。でも、ひいじいちゃんは二つ、ぼくにとっても大事なものを残してくれました。

一つ目は、カメの宝石です。その宝石を見るたびに思い出します。ひいじいちゃんの顔がうかび、声が聞こえてきます。

もう一つは心です。ひいじいちゃんのように、どんな人にも思いやりの心をわすれないということです。

ぼくがひいじいちゃんからもらったものは、ぼくにとってとても大事で、わすれられない思い出です。この思い出をむねに、ぼくは一步一步と未来へ足をふみ出します。そんなぼくを見て、ひいじいちゃんはきっと天国で笑っていると思います。

優 秀 賞

大切な人

伊予小学校 3年 ながき 永木 かほ 架帆 さん

わたしのお父さんは、外でごはんを食べることが大好きです。休みの日はBBQばかりしています。そのたびにせっせと一人でじゅんびして、家ぞくみんなに食べさせてくれます。かたづけをするのもとても速いです。BBQの日は、お父さんが全部やってくれるので、お母さんは笑顔です。たまに作ってくれるおみそ汁もおいしすぎて大好きです。

わたしのお母さんは、はたらき者です。月曜日から土曜日まで朝から夜まではたらいしています。平日はさみしいけど、その分日曜日にたくさんあそんでくれます。玉子やきの作り方を教えてくれた時、上手にやけたのでたくさんほめてもらいました。お風呂に入る時間も大好きです。歌を歌ったり、おもしろいダンスをしたりして、笑いまくりです。おこるとこわいけど、いつもはやさしいです。

わたしの妹は、人前では大人しいけれど、わたしの前ではすごくおもしろくてかわいいです。けんかをすることもあるけれど、世界にたった一人の大事な妹です。いつもお母さんに「妹を守りなさい」と言われています。

地しんが多くてはなればなれになるのがこわくて泣きそうな日もあるけれど、わたしはこの家ぞくをまもっていきたいです。

優 秀 賞

家ぞくの大切さを実感した時

松前小学校 3年 やまだ かれん
山田 栞蓮 さん

私は家ぞくが大好きです。力持ちで楽しいことをいつも考えてくれるパパ。美人でやさしくて、時にはきびしく私のために正しいことを教えてくれるママ。お調子ものだけどやる時はやる、かっこいい弟。私の力のみなもとは、そんな家ぞくのそんざいです。

私の家ぞくはみんな剣道をしています。剣道の練習はしんどくてあついです。けいこをがんばって、自主練習をがんばっても、まだまだまけることが多いです。でも、一生けん命がんばる私に、たくさんの先生が教えてくれたり、おうえんしてくれたり、けいこに呼んでくれたりします。それは、パパとママが大人になるまでがんばってきたからだ、感しゃしています。

私は、剣道が大好きです。仲間もたくさん出来ました。すごい先生たちにしどうしてもらっています。私が練習をがんばって、上手になったわぎを出したり、し合でかつと、パパとママはすごくほめてくれます。弟もいつも私のおうえんだんで、私がかつとすごくよろこびます。私にとって剣道は、家ぞくの大切さを感じる一番の時間です。これからもこの時間を楽しんでいきたいと思います。

優 秀 賞

私の大好きな家ぞく

北伊予小学校 3年 まつだ あや
松田 彩 さん

お父さんは、いつもやさしくてお話をきいてくれたり休みの日はあそんでくれます。毎週水・土曜日は、まん画と一緒に借りにいってます。この日がいつもまちどおしいです。わたしは、お父さんが大好きです。

お母さんは、いつもみんなよりはやく起きて朝ごはんを作ってくれます。学校へ行く時は、

「いってらっしゃい。」

学校から帰ったら

「おかえり。」

と言ってくれます。わたしは、うれしいです。学校であった事をいつも聞いてくれます。だからいつも話をします。わたしが病気の際は、病院へつれていってくれたり、元気になるまでずっといてくれます。わたしは、お母さんが大好きです。

お姉ちゃんは、けんかをする事もあるけどべん強をおしえてくれたり、いっしょにあそんだり話をしたり、いっしょにいるのが楽しいです。お姉ちゃんと小学校へ通うのもあと6ヶ月くらいでさみしいです。おしゃべりしながら集合場所まで行くのが好きなので、卒業するまで続けたいです。わたしはお姉ちゃんが大好きです。家ぞくみんな大好きです。

優 秀 賞

支えてくれる家族

北伊予小学校 4年 しげまつ ななこ
重松 那々子 さん

お母さんが、県外で二年間単身赴任していました。そのとき私は、二年生でした。すごくさみしかったです。でも、お母さんが、毎週帰ってきてくれたのでとてもうれしかったです。しかも、おじいちゃんとおばあちゃんが、お父さんが仕事で家にいないとき、いつも家に来てくれてご飯を作ったり、家事をしたり面倒をみてくれました。お父さんも、ほぼ毎日、私たちの夜ご飯などを作ってくれました。最初は、二年間は長いと思っていましたが、いつの間にかどンドン月日が流れていって、お母さんが、帰ってくる日が来ました。

家族のみんなが支えてくれたおかげで、私もがんばれました。この支えてくれた分を、恩返ししたいです。たとえば、お母さんとお父さんの手伝いをしたり、おじいちゃんとおばあちゃんの庭の水やりなどをしてあげたいです。日常では、はずかしくて言えないけれど、家族のみんなに感しゃの気持ちを伝えたいです。私も、家族みんなを支えられるようにしたいです。家族のみんなに、すごく感しゃしています。

私は、

「この家族でよかったなあ。」

と思いました。

優 秀 賞

ミーちゃんとのきずな

伊予小学校 5年 たけち さき
武智 咲希 さん

ミーちゃんとは、私の愛犬です。私が生まれる前から家にいて、十月にはもう十七才です。人間でいうと、八十四才のおばあちゃんです。ミーちゃんはミニチュアピンシャーとミニチュアシュナウザーとのミックス犬です。チャームポイントは、左耳がたれていることと、まつげが長いことです。

ミーちゃんとの一番の思い出は去年、鳥取旅行を一緒にしたことです。鳥取砂丘では、ミーちゃんの足あとが残ったり、風が強くて顔の形がゆがんだりしておもしろいことがたくさんありました。宿につくと、他の犬のにおいがしたのか部屋中をかぎ回ってその後、つかれたのかぐっすりねむっていました。

小型犬の平均寿命は、十四才です。ミーちゃんは、十四才をこえて長生きしています。だけど、目が見えにくくなったり、耳が遠くなったり、ねる時間がふえました。これから、老犬の症状がすすんで、認知症になったり、立てなくなったりするかもしれません。ミーちゃんは、家族の宝物です。後どれぐらい生きるかわからないので、ミーちゃんとすごす一日一日を大切にしていきたいです。

ミーちゃん大好き。

優 秀 賞

わたしのすてきな家族

翠小学校 5年 ごとう なの
後藤 菜乃 さん

わたしには、祖父母がいない。だけど、とても幸せだ。なぜかというと、わたしにはとてもやさしくてすてきな家族がいるからだ。兄は、いつもやさしい。姉は、たくさん話してくれる。父は、いつも遊んでくれるし、とてもたよりになる。そして、母はいつもわたしを支えてくれるし、いつもわたしに勇気をくれる。

そんな家族のみんなは、わたしが失敗しても、

「よくがんばったね。次もがんばろうね。」

と、やさしくはげましてくれる。そして、少しでも何かできたら、いつも

「よくがんばったんだね。すごいね。」

と言ってほめてくれる。

一番お世話になっている母は、わたしのために、とてもがんばって仕事をしてくれる。そんな母は、いそがしいのに、キャンプに連れて行ってくれる。もちろん、家族みんなといっしょだ。

私は、家族についてふり返ったとき、家族とけんかをしたことが一度もないことに気が付いた。いつもとても仲良しだ。

わたしは、この家族に生まれてきてとてもよかった。

優 秀 賞

お空にいるお父さんへ

北伊予小学校 5年 ふなつ 船津 りりあ さん

わたしは、お母さんと弟との三人家族です。お父さんは、わたしが四さいのときにお空にいきました。お母さんは、

「お父さんは、みんなのことを守っているんだよ。」

と、いつも言います。わたしは、

「わかってる。」

と、いつも返事をします。でも、わたしは、お父さんのことをほとんどおぼえていません。このエッセイを書くときに、お父さんが使っていたけい帯電話を見せてもらいました。そこには、わたしの写真がたくさん入っていました。わたしは、お父さんにとっても愛されていたのが分かったし、とてもうれしかったです。そして、お父さんに守られているような感じがしました。

「お父さん。弟とは、よくけんかもするし、いらつくこともあるけど、わたしは、お母さんと弟と三人で元気にしているよ。だから、お父さんも安心してね。これからも、いろいろなことにちょう戦してがんばるから、お空から応援しててね。」

優 秀 賞

私の心の支え

伊予小学校 6年 すけがわ 助川 りあ 凜亜 さん

私は、家族でよく行く場所があります。それは、大好きなひいばあちゃんやご先祖様がねむっているお墓です。お墓参りに行くと、家族でひいばあちゃんの思い出話をしながらそうじをします。私の知らないひいばあちゃんの話も聞けて楽しいし、私と似ている共通点を見つけたり、昔話が聞けて新しい発見があったりします。そして最後は必ず心の中で、最近あったことを報告したり、「これからもお空から見守っていてね。」と言ったりして手を合わせます。ひいばあちゃんは見えないけれど、きっと私の話を聞いてくれていると思うし、存在を近くに感じて何だか心強くなります。

私はこのお墓参りを通して、ご先祖様とのきずなを感じます。ご先祖様がいたおかげで、私もここにいるんだなど。また、家族で一緒に行くことで、協力してそうじをしたり、ひいばあちゃんやご先祖様の話ができたりするので、私にとって楽しく心が落ち着く時間にもなります。ひいばあちゃんを近くに感じることで、私はこまっている時やなやんでいる時、「見守っていてね。」とお願いします。するといつもよりがんばれます。これからも家族全員でわすれずに、大切にしていきたいです。

優 秀 賞

私にとって大切な家族

伊予小学校 6年 にしおか あみ
西岡 空美 さん

私は今、いとこと家族一緒にくらしています。数年前まで家に子供は私一人でした。いとこ達は兄弟ではないけれど兄弟のように毎日一緒にいられる家族が増えてより楽しくなりました。お母さんと二人で出かける楽しみもありますが、それとは別にいとこと家族と一緒に出かける機会も増えました。この夏休み中にも川に行ったり、遊びに行ったりしました。一人で外出する時よりも大人数の方がさらに楽しかったです。私は家族の大切さを知りました。一人より大人数の方が楽しい。楽しく過ごすには、みんなが思いやりをもって仲よくする。私たち家族は年齢もちがうし性格もちがうけれど、みんな毎日笑っています。

そしてもう一つ私には家族のように大切な人がいます。それは地域の人です。毎日あいさつをしたり話をしたりしています。血のつながっている人だけが家族ではないと感じるのです。どんな人とも仲よくしたいです。そしてこの時間を楽しみます。家族がいない人もいます。いついなくなるか分からない。今の時間をこうかいしない様に一分一秒を大切にして「家族」との時間を楽しみます。

私は今の毎日が、とっても楽しいです。

優 秀 賞

家族に支えられて

中山小学校 6年 おきの ひなか
沖野 陽菜香 さん

私は、なかなか学校に行けません。なぜなら、友達や教室がこわいからです。それでも家にいると「学校に行かないと」と心が苦しくなります。そんな私を、家族は側で支えてくれています。

姉は、けんかもするけれど、仲がよく、一緒に遊んでくれます。共通の話題も多く、姉と話をしていると気持ちが晴れてきます。気持ちがふさいでいるときは、声をかけてふんい気をやわらかくしてくれます。

父は、朝は早く仕事に行き、夜はおそく帰ってくるので、平日はなかなか話ができませんが、休みの日には気分転換にいろいろな所に連れて行ってしてくれます。また、面白いことを言ったりしたりして笑わせてくれます。私が話せるようになるまでじっと待ってくれます。そして、気持ちを理解してくれようとしています。心や体の心配をいつもしてくれて優しいです。

私の家族は、いつでも側にいて、私の事を大切にしてくれます。わたしは、つらいことがあっても、家族に支えられてがんばれています。だから、私も家族を支えられるようにがんばっていきたいです。

優 秀 賞

二匹の命を繋いでいく

佐礼谷小学校 6年 ふくおか 福岡 つむぎ 紬 さん

僕の家では、「いと」と「つな」という二匹のねこを飼っています。この二匹とはある出会いがありました。兄の野球の試合を見に行っている時、一匹の野良猫が草むらから出てきました。それがいとです。つなとは、里親イベントで出会いました。つなは、とても体の小さな猫でした。

初めて家に来たときはどちらもおびえていましたが、今では、一緒に寝たり、遊んだり、毎朝お見送りをしてくれたりします。

しかし、外へ逃げ出してしまい、手のかかることもあります。すぐに見つからない時には、休まず一時間ほどかけて探します。一時間もかけて探すのには、大事な家族だからという以外にも理由があります。

それは、「つな」という名前の由来に関係しています。「つな」は漢字で「繋ぐ」と書きます。つなと今過ごせているのは、里親の人やつなの母親がつなの命を守り、繋いできたからです。僕たち家族も、いとやつなの命を守り、繋いでいきたいと思っています。

だから、いととつなにさびしい思いをさせた時には、家族のみんながいととつなをなでたり抱っこしたりします。僕は、そんな五人と二匹の家族が大好きです。

優 秀 賞

世界に一つだけの宝物

北伊予小学校 6年 いながき 稲垣 なぎさ 渚 さん

僕の家には、家族みんなの宝物があります。それは、家で飼っているねこの幸（ゆき）です。よくかんだりひっかいたりしてくるけどかわいくて、とっても大切な僕の家族です。

幸はおとし、祖父母の工場の近くで見つかり保護しました。その時はとても小さく丸まっておびえていました。病院に連れていくと、まだ生後二ヵ月だと分かりました。家に帰ると家族みんなでお出むかえしました。その後、みんなで名前を決めました。幸せになってほしいと願いをこめて、幸と名付けました。幸はその願いと共に、すくすく育ってもう二歳になりました。それに、幸のおかげで家族とのきずなも深まった気がしました。この時、僕は初めて、幸はペットではなく大切な家族の一員だと思うようになり、なんだか少しうれしくなりました。

僕は幸のおかげで家族とのきずなも、幸とのきずなも深まったから出会えて本当によかったなと思いました。そう思うと改めて幸への愛やありがとうの気持ちを伝えていきたいと思いました。だから、これからは今まで以上にたくさん遊んだり、かわいがったりして、たくさんの思い出をつくって、きずなを深めていきたいです。

優 秀 賞

あいさつは相手をみとめる行為

岡田小学校 6年 いとう つき
伊藤 月祈 さん

私が祖父と初めて会ったのは、去年の七月です。

その日は、近くのショッピングモールでいっしょに食事をする事になっていました。祖父と合流してレストランに行く途中、歩いている人にあいさつをされました。私はとまどってしまい、あいさつができませんでした。すると祖父が、「あいさつはちゃんとせえよ。」

と言ってきました。私は、その一言で、祖父はこわい人だと決めつけていました。

食事をしたあと、祖父の家に行きました。すると、近所の人とすれちがいました。祖父は、あいさつをして、そのまま近所の人と話しはじめました。私はおどろきました。こわい人だと思っていたのに近所の人と楽しそうに話しているからです。私はここであいさつの大切さに気がつきました。あいさつは、人の第一印象を作るのかなと思いました。

私は今まで気にもせず、あいさつをしていたけど、今は、相手の目を見て自分からあいさつを心がけています。そうすることで、人とのコミュニケーションもしやすくなり、交友関係も良くなるので、あいさつは相手をみとめる行為なのかもしれないと思いました。

優 秀 賞

大切な私とお母さんの『合言葉』

港南中学校 1年 ^{ふるかわ}古川 みらん さん

私とお母さんには、心をつなぐ大切な『合言葉』があります。

私の通っている小・中学校には、数年に一回程度、家族と離れる、自然の家や修学旅行というものがあります。そんな時、私がソワソワしていると、お母さんは、

「絶対、大丈夫！楽しんできてね。明るいことを考えたらいいよ。」

と、毎回、声をかけてくれました。時には、お守りを作ってくれたり、妹からも手紙をもらい、みんなから支えられているんだと幸せな気持ちになり、元気をもらいました。お母さんはいつでも、「大丈夫という言葉は合言葉だよ」と教えてくれたり、「心はつながってる！」と大切な言葉をたくさん教えてくれて、いつも楽しい思い出ができています。それはきっと、お母さんのおかげです。今では、私のソワソワも、無くなっていき、お母さんに言われなくても、心の中で、「大丈夫。心はつながっている。明るく楽しく過ごそう」と思うようになりました。「大丈夫」という言葉は普段、使うことも多いけど、私は「大丈夫」という言葉には、意味も考え大切に使うことを意識しています。これが、私とお母さんの大切な合言葉です。

優 秀 賞

世界で一人の大切なお母さん

伊予中学校 1年 なかがみ 仲神 りん 凜 さん

私が家族のきずなを感じた瞬間は、お母さんと本気で喧嘩をした日のことです。

小学6年生のときに反抗期で家族の言う事なんて一切聞いていなかったところに喧嘩が起きました。

どんな理由で喧嘩をしたかまでは覚えていませんが、お母さんと私がバチバチだったということは鮮明に覚えています。

私は、絶対に仲直りなんてするものかと思って家を飛び出してしまいました。

家を出たあとは、少し寂しく悲しくもありました。

公園で一人しょんぼりしていると、お母さんは相当心配しているような顔で私のことを探していました。とても一人でいるのが寂しかったのでお母さんの方へ走って向かいました。お母さんが私を見つけるとホッとしたような顔をしていたのでとても安心しました。

お母さんは私に抱きつき「ごめんね」と言ってきたのでなみだがあふれました。

無事に仲直りできて本当によかったと思いました。

改めてお母さんの温かみを感じられました。かわいくて、おもしろくて、やさしい自慢のお母さんとずっと仲良くしたいです。

優 秀 賞

曾祖母の姿

伊予中学校 1年 ともざわ 友澤 まお 眞生 さん

曾祖母の家に行くと、よく手遊びをしていた。特に「蜂が刺した」という遊びが好きだった。「蜂が刺した」は、「一が刺した」「二が刺した」と交互に言いながら相手の手の甲をつまんでいく遊びだ。その時の曾祖母の手はしわくちゃで、手の甲ながらも温もりを感じて、そんな曾祖母の手が好きだ。そして、にこっと笑う曾祖母の笑顔が好きだ。

曾祖母はみかんやレモン、桃、大根などいろいろな物を作っていた。冬に行くと、みかんを倉庫から取ってきてくれる。その後ろから見る少し丸まった背中からは、優しさや温もり、数えきれない思い出がよみがえってくる。そんな曾祖母の作るものは格別だ。特にみかんや桃はだれにも負けない味だ。口の中全体に広がるあの感覚はとてつなく幸せだ。あの感覚は忘れない。

曾祖母の家には数えきれないほどの思い出が詰まっている。次は曾祖母に大きい、大きい思い出をプレゼントしたい。そして、様々な人に憧れてもらえるようなそんな人になれるよう、私は頑張りたい。いつもは恥ずかしくて言えないけど、「いつもありがとう」そう伝えたいと思う。

優 秀 賞

骨折りを「損」から「得」へ

松前中学校 2年 はぎおか はると
 萩岡 春斗 さん

「うわあ！」大きなうめき声が道場に響いた。ある日の空手の稽古のことである。僕は父と一緒に空手を習っており、その日も迫る大会に向けて、父と稽古に励んでいた。空手を始めて間もない時は、様々な試合で入賞してきたが、中学生になるとなかなか勝てないことが多くなっていた。試合に負けると落ち込むことも多かったが、その度に父と反省と課題について話し合い、次戦の勝利を信じ前向きに稽古を積み重ねていった。

そんな中、父と組み手の稽古の最中に、後ろ蹴りという大技が鮮やかに決まり、父の腹部に僕のかかどが突き刺さった。父はうめき声と共に畳に倒れて、しばらく動けなかったが、その後立ち上がり「よくやった！いい技が出せたな！」と笑いながら讃えてくれたのだ。

父はその翌日、病院で診てもらおうと肋骨が二本折れていた。そんな痛みの中で、なんで笑っていたのか父に尋ねてみると、僕が強くなったことが心から嬉しかったそうだ。体を張って僕を強くしてくれようとする父の思いに感動した。

僕は必ず勝つ。父の思いに報いるために、父の骨折りを損で終わらせるのではなく、そこから得られる自信と誇りを胸に刻んで。

優 秀 賞

ひいおばあちゃんからの恩

岡田中学校 2年 まつとも ひより
松友 日和 さん

私の曾祖母は、とても優しい人でした。曾祖母は県外に住んでいたのので、たまにしか会いに行けていませんでした。入院していたのですが、曾祖母はいつも温かく出迎えてくれました。母が作った「また会いに来るね」と書かれた写真は今も曾祖母の部屋に大切に飾ってあります。優しい声で私の名前を呼んでくれる曾祖母のことが大好きでした。その頃の私には、身近な人が急にいなくなるなんてわかっていませんでした。葬式の時に泣いていた母の気持ちもさっぱり分かりませんでした。大切な人はいつもそばにいてくれると思っていました。小さい時なので覚えていることは少ないですが、たまに母が「ひいおばあちゃんはおいしいご飯を作ってくれていたんだよ」と教えてくれます。曾祖母がくれた優しさに私は何も返せませんでした。天国にいるひいおばあちゃんに伝えたいことがあります。あなたのおかげで私は成長でき、介護士になるという夢もできました。私はひいおばあちゃんのような優しい人間になれるでしょうか。何十年後かに天国で会うとき、少しでも胸を張って自慢できるようにがんばります。返せなかった恩を忘れずに日々精進します。ぜひ天国でゆっくり見守ってくださいね。

優 秀 賞

家族の愛

岡田中学校 2年 ほりかみ はつね
堀上 初音 さん

私は、毎日家族から愛をもらっています。その何日もの中で一番愛を感じたと思っっていることがあります。それは、部活がある日に熱中症が心配だからと言って送り迎えをしてくれていることです。いつも私が家を出る時間には起きてくれていて、帰って来るときにはそれに合わせて行動してくれています。用事がある日にも少しの休憩時間で迎えに来てくれたりしています。仕事や他のことで急がしいのにわざわざ送り迎えしてくれていることに愛を感じています。歩いて帰っているときに、水分がなくなってしんどかったときに、車で迎えに来てくれました。熱中症にもならず水分もくれたのでとても感謝しています。

その他にも、休みの日も学校がある日も毎日朝ごはんを用意してくれます。「もう中学生なんだから自分で用意しなさい」と言いつつ用意してくれている家族からとても愛を感じました。私が産まれてからずっと毎日愛を伝えてきてくれた家族に今度は私から伝えたいなと思いました。家事を手伝ったりして恩も愛も伝えていこうと思いました。これからも家族全員と仲よく楽しい愛があふれる生活をしていきたいです。

優 秀 賞

そこにいてくれるだけで

北伊予中学校 2年 やまもと 山本 はるみ 遥海 さん

「家族」って何だろう。血のつながっている人？別にお父さんとお母さんは血がつながっている訳ではない。戸籍で認められている人達？確かにそれも家族と言えるだろう。私は「家族」を一言で表すのは難しく感じた。ただ、私の中にあることばで「家族」と言う存在を表すなら「心のやすらぎ」だろうか。

お母さんは私が遊びに行くとき、「車に気をつけてね。生きてさえいればいいからね。」とたまに言う。私は疑問を抱いた。生きていだけでいいのか。ただそこにいだけでいいのか。でも私は今年、それを感じる時があった。お兄ちゃんも修学旅行、お母さんは仕事で帰るのが遅かった夜。私はなぜだか心細さを感じた。別に二人がいなくても一夜くらいは一人で過ごせる。でもただ家族がいなくて心にちょっとしたすき間があった。逆に言えば家族がいるだけでその心のちょっとした不安が心のやすらぎに変わる。そう感じた。もちろん怒られた日や悪いことをしてしまった日は居心地が悪い。でも確かに私にとって家は、そこにいだけで安心する「心のやすらぎ」だった。もし私が大人になったら「心のやすらぎ」である家庭を作りたい。

優 秀 賞

祖母の言葉

中山中学校 3年 あいざわ逢沢 きの紀乃 さん

私には、神奈川県に住む祖母がいます。祖母は、遠くに住んでいることもあり、よく連絡をくれます。祖母が書く文章は、いつも季節を感じさせる言葉で始まります。その後には、手話教室での出来事や散歩の途中で発見したもののことなどが書かれています。内容はいつも違いますが、毎回必ず、「元気にしていますか？」と書かれています。愛媛県で地震があった時や天気が荒れている日には、いつも心配のメールをくれます。「大丈夫ですか」「傘を忘れないようにね」など、私を気にかけてくれる言葉をもらいます。

しかし、返事をするのが面倒くさくなり、読むだけで返さない時があります。メッセージを読まないこともあります。私は、気付かないうちに、祖母の気持ちを受け取ることを辞めてしまっていました。私に送られた一文字一文字を無駄にしてしまいました。私は、これまで何度も祖母の言葉に支えられてきました。しんどいことがあっても励ましてくれて、祖母が大切にしている言葉や詩を送ってくれることもありました。これは誰にでもできることではありません。当たり前のように家族が支えてくれる日々感謝し、私もたくさんの人を支えていきたいと思います。

優 秀 賞

自分が放った言葉が

北伊予中学校 3年 まなべ 眞鍋 りひろ 里寛 さん

「お前なんかどっかいっちゃえ！」この言葉を弟に放ったのは僕が小学六年生の頃です。僕より二つ下の弟は、本当に弟かと思うぐらいしっかりしていて、でも家に帰ると急変、よく僕にちょっかいや悪さをしていて、そのたびに喧嘩をしていました。その日の喧嘩もすぐ終わって次の日、いつも通り学校に登校して、近々ある水泳記録会のために同級生と小学校のプールで練習していました。片付けを終え、家に帰っていたはずの弟が家にいないと言われ、僕は昨日言った言葉に引っかかりました。「昨日あんなことを言わなければ」僕は走って家に帰り、近くの広場や公園、弟が行きそうな場所をしらみ潰しに探しました。幸い、近くの場所にいましたが、喧嘩でも、討論でも、もうあのような言葉を軽々しく言わないようにしようと思いました。今でもしょっちゅう喧嘩をして一時的に仲が悪くなりますが、僕たちも大きくなったので、何が原因で喧嘩をしているのかを考えて発言するようになり、すぐ元通りになります。僕は部活動を引退し、弟の代になったので、弟たちにがんばってほしいなと思います。そしていつか弟がすごい男になることを期待しています。

人づくりによる国づくりをめざしています

モラロジー教育では「3つの心」を育てます。

思いやりの心

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

感謝の心

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にする尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

自立の心

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

愛媛伊予モラロジー事務所は、公益財団法人モラロジー道德教育財団より設置を承認された団体であり、よりよい社会づくりに貢献することを目的とした社会教育活動を行っています。

モラロジー道德教育財団は、倫理道德の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年の創立以来、「道德で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸課題の道德的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。

モラロジー(moralogy)は、「道德」を表すモラル(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学術名で「道德科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道德の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした科学「総合人間学」です。

第11回「家族のきずなエッセイ」協賛各社

(株)公益社 月心会館	代表取締役 福岡 正人	伊予市下吾川 1854-2 電話：089-982-4242
(有)入船木工所	取締役 入船 和晃	伊予市下吾川 808-4 電話：089-983-1123
彩濱館（仕出し）	代表 北岡 正壽	伊予市灘町 311 電話：089-982-0314
日野農園	日野 一男	伊予市下吾川 1176 電話：089-982-2116
武智写真館	代表 武智 忠広	伊予市灘町 183-1 電話：089-983-1222(代) FAX：089-983-1223
温熱考房いよ店	代表 西川 延幸	伊予市上三谷 1137-4 電話：089-994-6687
(有)国西測量設計	代表取締役 國西 俊孝	伊予市上吾川 1569 電話：089-982-2963



第 11 回「家族のきずなエッセイ」作品集

発行日：令和 6 年 11 月 30 日

<主催・企画・運営>

愛媛伊予モラロジー事務所

代表世話人 國西俊孝

〒799-3112 愛媛県伊予市上吾川 1570-2

TEL & FAX : 089 (983) 4696

※ 当作品集に掲載の入賞作品の無断転載を禁じます